

## 動物介在教育指導者育成に向けた大学の実習の事例 ～介在動物を導入しない動物介在教育指導案の検討～

生野佐織\*・根本紗季・望月真理子・的場美芳子

日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医学部獣医保健看護学科

### A case study of university practice to the training up leaders of animal-assisted education: Examination of animal-assisted education instruction plan using no animals

SHONO Saori\*, NEMOTO Saki, MOCHIZUKI Mariko, MATOBA Miyoko

School of Veterinary Nursing and Technology, Faculty of Veterinary Science, Nippon Veterinary and Life Science University

#### 緒言

介在教育・療法学会では、動物介在教育（以下、AAE）とは、「教育従事者（あるいは有資格者）が教育目的や学習目的を設定し、授業計画を立て、学習過程に動物を導入し、その過程を評価するもの」と定義している。近年、AAEが注目を集めているが、実際の現場において、介在動物に対するアレルギーなどの公衆衛生上の問題や、介在動物についての知識を持ち、動物を扱える教育従事者がほとんどいないのが現状である。これらの問題の解決には、アニメーションやワークシートなどを用いた介在動物を活用しない動物介在教育指導案が必要であり、学習指導要領についての知識を持ち、かつ介在動物の行動や習性・適正飼育の知識と動物をハンドリングできる人材の育成が必要となる。そこで、動物の身体や行動の知識をもった動物看護師を育成する大学に着目した。今回、事例として紹介するのは、日本獣医生命科学大学（以下、日獣大）の獣医保健看護学科の実習で、公衆衛生に配慮した介在動物を導入しない動物介在教育指導案（以下、AAE指導案）の事例、動物を介在しないアニメーションを用いた場合と用いていない場合のAAE指導案の傾向をまとめたので紹介する。

#### 方法

日獣大の獣医保健看護学科は、統一認定動物看護師資格の取得が可能なカリキュラムおよびASAETの動物介在教育指導者養成講座の認定校であり、そのカ

リキュラムに基づいた講義と実習を行っている。さらに教職課程の講義を受け、教員免許を取得することが可能である。3年次では、動物介在療法に関して、動物介在に活用される動物に関する知識、AAEの事例、学校飼育動物、動物福祉やリスクマネジメントを学び、4年次では、3年次の動物介在療法論の知識を基礎として、AAE活動の指導案を考え、その指導案を行うことや動物を介在させた実践的な実習を行っている。

4年次学生のうち、2017年度および2018年度に開講された動物介在療法実習を履修している学生（2017年度26名、2018年度25名）を対象とした。2017年度は、ASAETの動物介在教育指導者養成講座で使用されている動物介在教育の構想をまとめるためのワークシート（構想ワークシート）にAAE指導案を自由に考案してもらった。2018年度は、構想ワークシート作成前に、「ハルの日」（一般社団法人Free Pets 2016）のアニメーションを鑑賞し、その後構想ワークシートを用いAAE指導案を考案してもらった。「ハルの日」の内容はハルと名付けられた犬が、飼い主の無責任な飼育放棄により動物愛護センターに連れて行かれ一生を終える、という内容である。両年度の学生が立案したAAE指導案の内容を比較した。本実習は、人および動物への倫理的配慮および動物福祉の考えを守り実施された。

\*連絡先：sshono@nvl.u.ac.jp

## 結果および考察

### 事例

実際に2018年度4年次学生が考えたAAE指導案の事例を紹介する。小学校3年生を対象とし、45分間の授業を2コマ使用する。関連する教科として道徳、図画工作をあげ、教育効果として共感性、想像力、表現力を養うことを目的とした。具体的には、「ハルの気持ちを考えて想像（創造）しよう！」と題し、ハルの日の動画を小学生に鑑賞させ、ハルの気持ちをワークシートに記入してもらい、その後5人程度の班を作り、その班でどこを変更すればハルが幸せになったかを考えてもらう。考えた内容を基にオリジナルストーリーを作り、紙芝居にして発表する、という指導案を作成した。

### 2017年度と2018年度のAAE指導案の比較

この事例のようなハルの日を使用した指導案を考案したのは、2017年は0件であったが、2018年度が12件であった。本学科には、動物が好きで進学した学生が多く、そのような学生には「ハルの日」のアニメーションは印象深く、強い印象を与える内容であったと考えられ、このアニメーションをプログラムの課題として選んだ学生が多かったと推測された。また、犬を活用しない活動は、2017年は0件であったのに対し、2018件は13件であった。AAE指導案を作成

する前に、ハルの日などの、実際にAAE活動に使用されている犬を活用しない指導案の事例を見せることで、介在動物を活用できない場合でもAAEが可能であることを大学4年次学生が理解し、犬を活用しない指導案に興味を持ち、自ら作成しようという学生が多かったことが考えられた。2018年度の構想ワークシートにて、関連する教育活動に「道徳」と記入した学生は26名中19名であった。その他の学生が立案したプログラムを検討したところ、期待される教育的効果として、「他者への理解・思いやり・生命尊重・協調性」を上げる学生が14名いた。考案者が「ハルの日」の作成の意図を、的確に理解していたこと、また実際の道徳教育に繋がると感じた学生が多かったと考えられた。

### 総括

本事例から、学校教育および動物のハンドリングを学べる大学において、介在動物を活用しないAAE指導案の講義を取り入れ実際に実施することは、指導案を考案する人にとって有益なものであることが分かった。さらにこれを学んだ学生が今後AAE活動を行う際に、介在動物を活用しない方法を応用し様々な人や場所に対応した活動ができ、AAE活動が広がっていく可能性が示唆された。